

がん患者の気持ちのつらさガイドライン

研究分担者 藤澤大介（所属 慶應義塾大学医学部）
 研究分担者 奥山 徹（所属 名古屋市立大学大学院医学研究科）
 研究分担者 内富庸介（所属 国立がん研究センター中央病院）
 研究分担者 藤森麻衣子（所属 国立がん研究センター中央病院）
 研究分担者 島津太一（所属 国立がん研究センター社会と健康研究センター）

研究要旨

がん患者の Quality of Life(QOL)に大きく影響する「気持ちのつらさ」に関する診療ガイドライン作成を目的とする。Minds 診療ガイドラインの作成マニュアルにのっとり、現在システマティックレビューを実施中である。

A. 研究目的

がん患者の Quality of Life(QOL)に大きく影響する「気持ちのつらさ」に関する診療ガイドラインを作成することを目的とする。

B. 研究方法

Minds 診療ガイドラインの作成マニュアルにのっとりすすめている。

統括委員会は、奥山（委員長）、吉内、稲垣正俊（島根大学）、貞廣良一（国立がん研究センター）で構成し、ガイドライン作成グループは、責任者藤澤の下、以下で構成した。

松岡豊・藤森麻衣子（以上：副責任者、国立がん研究センター）、浅海くるみ（東京工科大学医療保健学部看護学科）、阿部晃子（慶應義塾大学医学部精神神経科／緩和ケアセンター）、荒井幸子（横浜市立大学附属病院薬剤部）、五十嵐友里（埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック）、市倉加奈子（北里大学医療衛生学部健康科学科）、今井晶子（市民委員）、采野優（京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学講座）、

岡島美朗（自治医科大学附属さいたま医療センター）、岡村優子（国立がん研究センター中央病院）、小早川誠（広島県安佐市民病院）、佐藤温（弘前大学大学院医学研究科腫瘍内科学）、竹内恵美（国立がん研究センター中央病院）、田村法子（慶應義塾大学医学部精神神経科）、馬場知子（自治医科大学附属さいたま医療センター）、久村和穂（金沢医科大学医学部腫瘍内科学）、松本禎久（国立がん研究センター東病院緩和医科）、村上好恵（東邦大学看護学部）、樫野香苗（名古屋市立大学大学院看護学研究科）、柳井優子（国立がん研究センター精神腫瘍科）、吉川栄省（日本医科大学医療心理学教室）

再発恐怖の診療ガイドラインのグループと協働しながら作業を進めている。

（倫理面への配慮）

既存の研究のレビューのため倫理的問題は発生しない。

C. 研究結果

クリニカルクエスチョンを以下に設定し、現在、系統的レビューを実施中である。

- ・がん患者の気持ちのつらさに抗不安薬は推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさに抗うつ薬は推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさに心理療法は推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさに協働的ケア collaborative care は推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさに早期からの緩和ケアは推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさに介護者（家族など）への支援は推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさにピアサポートは推奨されるか

対象は、成人がん患者（18歳以上）、

アウトカムは、益のアウトカムとして、気持ちのつらさ指標の改善（distress）、抑うつ（depression）、不安の改善（anxiety）、QOLの向上（quality of life）、生存の向上（survival）、害のアウトカムとして、有害事象（adverse effect）、脱落（drop out）をあげた。

D. 考察

今後、がん患者の気持ちのつらさに対する診療ガイドラインが作成され、がん患者のQOLの向上が期待される。また、がん患者の気持ちのつらさについて今後推進すべき研究が明らかになる。

E. 結論

がん患者の気持ちのつらさに対する診療ガイドラインが作成されることにより、がん患者のQOLの向上が期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表

1) Sato T, Fujisawa D, Arai D, Nakachi I, Takeuchi M, Nukaga S, Kobayashi K, Ikemura S, Terai H, Yasuda H, Kawada I, Sato Y, Satomi R, Takahashi S, Haraguchi

Hashiguchi M, Nakamura M, Oyamada Y, Terashima T, Sayama K, Saito F, Sakamaki F, Inoue T, Naoki K, Fukunaga K, Soejima K. Trends of concerns from diagnosis in patients with advanced lung cancer and their family caregivers: A 2-year longitudinal study. *Palliative Medicine* 2021 Mar 24;doi:

10.1177/02692163211001721. [Online ahead of print]

2) Kosugi K, Nishiguchi Y, Miura T, Fujisawa D, Kawaguchi T, Izumi K, Takehana J, Uehara Y, Usui Y, Terada T, Inoue Y, Natsume M, Yajima MY, Watanabe YS, Okizaki A, Matsushima E, Matsumoto Y. Association between loneliness and the use of online peer support groups among cancer patients with minor children: a cross-sectional web-based study. *Journal of Pain and Symptom Management* [ePub ahead of print] doi:

<https://doi.org/10.1016/j.jpainsymman.2020.09.035>

3) Fujisawa D, Umezawa S, Fujimori M, Miyashita M. Prevalence and associated factors of perceived cancer-related stigma in Japanese cancer survivors. *Japanese Journal of Clinical Oncology* 2020;50(11):1325-1329

4) Takeuchi E, Fujisawa D, Miyawaki R, Yako-Suketomo H, Oka K, Mimura M, Takahashi M. Cross-cultural validation of the Cancer Stigma Scale in the Japanese general population. *Palliative and Supportive Care Palliative and Supportive Care* 2021;19(1):75-81

5) 藤澤大介、山本玲美子、田村法子. 気持ちのつらさの評価. (緩和ケア・がん看護臨床評価ツール大全.) 2020, 青海社, 東京

6) 藤澤大介、阿部晃子. 気持ちのつらさ（不安・抑うつ）. (レジデントノート増刊 22(11)) pp.172-179, 2020, 羊土社, 東京

- 7) 藤澤大介. 身体疾患の患者さんとどう語るか? がん患者さんを例に. (臨床心理学 20(4)), pp. 439-444, 2020, 金剛出版, 東京
- 8) 伊藤怜子、清水恵、佐藤一樹、加藤雅志、藤澤大介、内藤明美、森田達也、宮下光令. 日本の一般市民を対象に受療行動調査の質問項目によって測定した QOL の性質とその関連要因. Palliative Care Research 2020;15 (2), 135-146

2. 学会発表

- 1) 藤澤大介. がん診療におけるマインドfulnessやメディテーション (瞑想) の活用. 緩和・支持・心のケア合同学術大会 2020 年 8 月 (WEB 開催)
- 2) 藤澤大介. Guideline in progress - がん患者の気持ちのつらさガイドライン. 緩和・支持・心のケア合同学術大会 2020 年 8 月 (WEB 開催)

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)
なし